

辺野古における新基地建設に反対し、名護市長選挙を全力で支援する決議

- 1 私たちは、本日沖縄県那覇市で拡大常任幹事会を開催するのに先立ち、1月15日～16日、米軍普天間基地及び同基地の移設先とされている名護市辺野古地区の現地調査を行い、伊波洋一宜野湾市長や辺野古の住民の方たちの声と意見を聞いた。

辺野古は、緑豊かな山々と国の天然記念物であるジュゴンや珊瑚の生息する美しい海に抱かれた自然豊かなすばらしい地域であり、大浦湾は、絶滅危惧種リストのアオサンゴや新種の生物も多数発見されている宝の海である。私たちは、辺野古の豊かな自然に接し、住民から「このすばらしい辺野古と大浦湾の美しい海に新基地はいらない」などの声を聞き、辺野古における新基地建設がとうてい許されないことを痛感した。

米軍普天間基地の調査では、米軍ヘリが住宅地上空を低空で旋回して訓練を繰り返し、住民はすさまじい爆音被害と墜落の危険にさらされ続けている実態を目のあたりにし、普天間基地の辺野古移設がとうてい許されないことを痛感した。

- 2 民主党連立政権は、アメリカ政府による普天間基地の辺野古移設の強要が続くなかで、圧倒的多数の辺野古における新基地建設反対の沖縄県民の意思を無視することができず、昨年内の決着を回避し、本年5月まで結論を先延ばしするに至っている。

ところが、その後、民主党連立政権は、アメリカ政府に対して普天間基地の無条件撤去を求めることなく、グアムを含むさまざまな「移設先」探しのために迷走を続けている。一方アメリカ政府は、自民党政権との間で「合意」した現行案以外に選択肢はないとして辺野古における新基地建設を迫っており、民主党連立政権も、辺野古移設を一つの選択肢にしている。

アメリカ政府は、老朽化した普天間基地の代わりに世界各地に軍事介入するための最新鋭基地を建設することをねらっており、新基地にはすさまじい爆音を撒き散らすMV22オスプレイの配備が予定され、今まで以上の爆音被害の発生が危惧される。

- 3 このような中で、全国の注視のもとに、辺野古における新基地建設を許すか否かを最大の争点にして、1月17日告示、同月24日投票の日程で名護市長選挙が行われようとしている。今回の名護市長選挙は、新基地建設を容認する現職候補と、「辺野古に美ら海（ちゅらうみ）を埋め立てる新基地をつくらせない」ことを公約する稲嶺ススム候補のたたかいとなっている。

稲嶺候補の勝利は、辺野古における新基地建設を容認するかのような民主党政権の動

揺と迷走を正し、辺野古の新基地建設を阻止し、普天間基地の即時無条件撤去を勝ち取る上で決定的な力となるものである。また、稲嶺候補の勝利は、基地被害に苦しめられ、米軍基地反対闘争に立ち上がっている全国の人たちに大きな励ましと希望を与えるものである。

- 4 沖縄では、本土復帰後新たな米軍基地は建設されておらず、辺野古・大浦湾に、激しい爆音被害や墜落の危険に加えて、生態系の破壊と環境汚染をもたらす新基地を建設することは絶対に認められない。

私たちは、名護市辺野古地区と米軍普天間基地の現地調査を踏まえ、来る名護市長選挙において、辺野古における新基地建設に反対する市長が誕生することを強く期待し、名護市長選挙を全力で支援する決意である。

2010年1月16日

自由法曹団拡大常任幹事会